

事業所の概要表

(令和 3 年 10 月 4日現在)

事業所名	グループホームいずみ					
法人名	営利法人(有限会社)					
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字永野市98番地1					
電話番号	0985-45-2171					
FAX番号	0895-49-3169					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 (1) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能ほのぼの・サービス付き高齢者住宅)					
ユニット数	1 ユニット 利用定員数 9 人					
利用者人数	9 名 (男性 0 人 女性 9 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	3 名	要介護2	0 名
	要介護3	0 名	要介護4	4 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	3 人	10年以上	3 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人 介護福祉士 5 人 その他 (看護師・准看護師)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	北宇和病院・富山医院・きほくの里歯科医院・岡宮眼科					
看取りの体制(開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 1 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	25,000 円		
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		
食材料費	1日当たり	1,400 円	(朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円	(夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()		
その他の費用	水道光熱費	適宜	円
	理美容代	1,500	円
	テレビ/日	100	円
	.		円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	1 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和 3年 11月 24日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	4	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	7		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3873900769
事業所名 (ユニット名)	グループホーム いずみ
記入者(管理者) 氏名	小松 洋子
自己評価作成日	令和3 年 10月 4日

【事業所理念】※事業所記入 笑顔・信頼・自由＝安心 ○利用者様が安心して暮らせるよう信頼関係を築いて行きましょう ○お互いの笑顔を見て、安心して暮らしましょう ○利用者様が安心して過ごせる自由の場をつくりましょう	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 10-D居室に入る際は必ず利用者様の許可を得て3回ノックをして入室している。29-Aやむを得ない時の施設許可は利用者様の家族様から得ているが、玄関に感知式センサーを設置する事で、施設をする事が無い。37-G面会時や文書などで報告している。39-Bコロナ禍で行事などが中止となっているため、行事などの参加は出来ていないが散歩などで出会った地域の人達には挨拶は行っている。40-B利用者やサービスの実績、評価への取り組み、状況、自己評価、外部評価の結果、目標達成計画等の状況報告をコロナ感染拡大防止のため運営推進会議を中止したため文書にて報告した。40-C運営推進会議メンバーより意見を出して頂く、その意見を取り組み、その結果を会議で報告する。48-B施設玄関に意見や要望、苦情等を書く用紙を設置し、誰でも入れる事が出来る箱を設置している。また、電話等でも受け付けている。49-D行っていただいていたが、コロナが流行してからは行っていない。50-Eコロナ流行前は行っていたが、コロナ流行期に入ってから行っていない。51-B知人などを通し、相談を受けアドバイスをしている。51-Eコロナ禍の中、地域イベントなどが中止となり活動が行えていないので、活動の協働が出来ていない。5-b 3ヶ月毎のモニタリングと1ヶ月毎のモニタリングに変更し計画に沿った評価を記録して行ってきた。「どのように記録していいのか分からない」と言う職員もおり△×としたが目標達成とはいえない。5-c 事後計画に基づいた記録による記録簿の様式を皆で話し合い検討し見直し作成したが介護計画に基づいた記録と言う点からは達成とはいえない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 食事やおやつは手作りが事業所の特長であり、日常のほかにも、行事や誕生日などは特別な献立にしている。利用者の楽しみや喜びにつなげている。 調査訪問日は地域の祭りの日で、新型コロナウイルス感染症対策のため祭りは行わないが、昼食に祭りの料理をつくっていた。汁ものは、数日寒かったこともあり、粕汁をつくっていた。 新型コロナウイルス感染症対策をしながら、季節の花を見にドライブしたり、河川敷を散歩したりできるよう支援している。東京オリンピックの聖火リレーを見学に行ったり、うどん屋を貸し切り、外食に出かけたりしている。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話の中から暮らし方の希望意向を聴取し把握に努めている。	○		○	日々のかかわりの中で「～はしたいですか」等と利用者に希望を聞きながら把握に取り組んでいる。毎年10月に、センター方式の私の姿と気持ちシートを更新している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な場合は職員だけでなく「本人ならどうしますでしょうか」と家族様に協力して頂いている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、親族、友人来訪時、「本人の思い」について協力して頂き把握に努めている。現在はコロナ禍で面会は、遠慮して頂いている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式を活用し本人の暮らし方への思いを年1回見直し整理共有化するための記録をしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思い、意向を聴取し、思い込みや決めつけによる支援は行わないように努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービスの経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	生活歴、こだわり、大切にしてきた事、環境等、コロナ禍の中、面会禁止のため本人、もしくは家族様の電話の範囲での聴取をしている。			△	入居時に、本人や家族に聞き取り、入居者情報シートやセンター方式の私の暮らし方シートに情報を記入しているが、多くの情報が口頭でのみの共有に止まっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できる事、出来ない事の把握に努め、できる事の称賛と現状維持、出来ない事を共に行い自信が持てるよう支援している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	個々の落ち着く場所、座席があり、他者が座ると不穏になるため職員は争いになる前に対応している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	困りごと不安に感じる事を聴取、状態観察し気づきを共有、状況に併せて都度、対応している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの状態を記録に残し2日前に遡り状態変化、留意点を申し送り共有把握支援に繋げている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が安心して過ごせるよう本人視点で検討し対応、状態確認をしている。			△	サービス担当者会議は、職員が日々の中で知り得た情報を持ち寄り話し合っている。さらに、本人の視点で話し合うための元となる情報を明確にしてはどうか。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	共同生活において他者との関わりを図っていき個々の自由、本人らしく暮らしていくため日々の生活状態について検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の意向を踏まえ、できる事の現状維持に努めその人らしく暮らしていける事を課題としている。?				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向聴取し安心して施設生活が過ごせるような計画としている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族に聴取し課題や日々のあり方について話し合っている。職員間でも話し合い、本人、家族様に報告しできるだけ意見、アイデアを反映し作成している。	◎		○	利用者から「英単語を勉強したい」(若い頃は英語を勉強できるような時代ではなかった)と希望があり、介護計画に採り入れて、アルファベットや単語のプリントで勉強する機会をつくっている事例がある。家族の意向や職員の意見等を採り入れて計画を作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者も他者と共に食事摂取、身体の状態に合わせて行事レクレーション参加して頂いている。日々声かけを行っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様には受診、家族会、外出支援、行政包括支援センターでの徘徊登録、医療では約束患者として時間外受け入れ可能体制、運営推進会議には災害時の移動支援の要請等				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各利用者担当者により1回/1ヶ月状態報告、モニタリング行い職員間で共有できている。			△	計画書をファイルに綴じており、管理者が職員に確認するよう伝えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に添っての支援が実践、状況確認はできてはいるが記録が不十分である。			△	情報共有シート(日々の介護記録)の記録の中から、その内容を探する必要があり情報量は少ない。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の状態、暮らしの変化を個別記憶し、職員間で情報を共有、個別毎に記録している。			△	情報共有シート(日々の介護記録)の記録の中から、その内容を探する必要があり情報量は少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者一人ひとりについて気づきや工夫アイデアをセンター方式に記録している。			○	月に1回、モニタリング表に、介護計画の内容にこだわらず職員の気づきを記入している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間内であっても入院、身体状態、認知状態に応じ見直しを行っている。			◎	管理者(計画作成担当者)が、責任を持って期間を管理しており、3か月ごとの見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	1回/1ヶ月ミーティングを行い状態報告し職員間で現状確認している。			○	月に1回、モニタリング表に、介護計画の内容にこだわらず利用者の現状を記入している。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合本人の思い、家族、医療指示を仰ぎ見直しを行い計画を作成している。			○	退院など、身体状態に変化があれば見直しを行っている。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	1回/1ヶ月、会議を開催している。、緊急の場合は管理者と計画作成担当者、看護師での開催となる場合もある。			◎	月に1回、ミーティングを行っており、ほぼすべての職員が参加している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	管理者がその場の雰囲気を盛り上げ、リラックスして意見交換ができるよう工夫している。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	開催日時は午後6:30~だったが、いずみ相談室で平日の午前中となり、全ての職員参加対象である。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	職員全員参加が望ましいが参加出来ない場合、毎月の記録担当者が記録しファイルに綴り常時観覧でき正確に伝えるしくみがある。			○	管理者が、ミーティング記録を確認しておくよう口頭で伝えている。重要な内容は、冷蔵庫に貼っているホワイトボードに記入しておくこともある。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間で情報伝達すべき内容は記録し職員が常時観覧でき共有できる。			○	家族から伝言があれば、情報共有シート(日々の介護記録)の家族の申し送り欄に記入している。また、冷蔵庫に貼っているホワイトボードに記入して共有している。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全てに伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の状態、伝達、重要な情報は申し送り簿により申し送り、緊急時は、連絡網を活用し全ての職員に伝達できるようにしている。		◎			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様一人ひとりに寄り添い、やりたい事を聞きだし叶えられるようにしている					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替える際や入浴時などに、次に着る服等は決めて頂いている			○	週に1回移動販売車が来ており、利用者がおやつなどを選んで買えるように支援している。	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望を表現できない利用者様には、いくつかの選択肢を提供し自分で決められやすく工夫している					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴曜日はある程度目安として決めてはいるが、どなたでも、何時でも入浴できる。また、入浴時間や食事の時間も希望に合わせている					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている	○	どんな時、どんな話が好まれるかを職員間で共有し、言葉かけや雰囲気づくりをしている			◎	食事やおやつは手作りすることが事業所の特長であり、日常のほかに、行事や誕生日などは特別な献立にしている。利用者の楽しみや喜びにつなげている。節分には、職員が鬼の姿に仮装して利用者はカワイイ豆まきをした。	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や全身の反応を見て本人の意向に沿った、その人らしい暮らしができる支援をしている					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	「自立支援」「人権擁護」「自己選択」念頭に置き利用者様の自主性と自立性を尊重してプライバシーを大切に言葉かけや態度に意識している	○	◎	○	月に1回のミーティング時に勉強会を行い学んでいる。廊下の掲示版には、「明るい挨拶、明るい笑顔を大切に」と掲示している。さらに、職員個々が、言葉かけや態度について定期的にチェックできるような取り組みもすすめてはどうか。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	一人ひとりに応じて敬意を払い、羞恥心が損われないように声かけや対応を行っている			○	職員は、利用者に聞きながら介助をしていた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	安心出来るよう、介助を行うことの説明や声かけを大切にしている。また、羞恥心やプライバシーに配慮しながら介助を行っている					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	留守の部屋に入る際にも許可を頂いてから、入室する。入室の際は必ずノックを行っているが、2回ではなく3回ノックするようにしている			○	ノックをして入室している。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	年に一度、プライバシー保護について社内研修を行い個人情報は外に漏らしてはいけないと、十分に理解し遵守している					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者をお預けされる一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	お礼を言われた際には、常にお互い様だと話している。また、利用者様が何時でも意見などが言える関係を築いている					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員は利用者様同士が話合ったり、笑いあっている場面を大切にしているし、場面作りにも努めている					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまづき力発揮してもらう場面をつくる等)	○	食事を食べる場所の位置など、トラブルに			○	たこやきを焼くなど、利用者同士でおしゃべりしながら一緒に作業をする場面を多くつくっている。夏祭り時のヨーヨー釣りでは、なかなか釣れない利用者への他の人が釣り方を教えてあげるような場面があった。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きれば、さりげなく仲裁に入り不安や支障を生じさせないように対応する					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族や知人から情報を聞きセンター方式に取り入れ職員全員が把握している				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時に本人や家族から情報を聞きセンター方式に取り入れ把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ感染症予防のため知人や友人と会う機会は減っていますが、ドライブに行く際には、大切にしていた場所などに出掛けている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ感染症予防のため面会は禁止している 県内の感染者数が激減している状況の時は近隣で過去2週間内に県外への移動や接触がない家族のみ面会を許可していた。玄関先で少し距離を空け椅子に座っての10分程行っていた				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候の良い日は感染対策をしっかり行い安全に散歩やドライブに出かけている	○	○	◎	新型コロナウイルス感染症対策をしながら、季節の花を見にドライブしたり、河川敷を散歩したりできるよう支援している。 東京オリンピックの聖火リレーを見学に行ったり、うどん屋を貸し切り、外食に出かけたりしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ禍での協力を求める事が難しいが、感染者数が落ち着いている時に、地域のうどん屋さんなどに協力して頂き安全に利用者様全員が参加する事が出来た				ベランダは居間から直接出られるようになっており、ひなたぼっこしたり、プランターの花の植え替えをしたりして過ごせるよう支援している。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	コロナ感染症が落ち着き、お店にも協力して頂き安全に行える状況が整ったので、外食に出掛けた				○
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	コロナ感染症拡大防止のため、家族や地域の協力を得ることが難しいが、感染状況をみながら行っている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの利用者様の行動や言動、身体の状態を常に観察し、利用者様に一番応じしいケアに努めている				室内でミニミニ運動会を企画して、利用者が、パン食い競争や魚釣りゲームなどで楽しみながら体を動かす機会をつくった。利用者は、「勝ちたい」「負けたくない」などの気持ちで競争をしたようだ。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	コロナ禍で戸外へ出掛ける機会も減っている中で、高齢化も進み、機能の低下も見られるため少しでも向上が図れることを取り入れている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る、出来ない、上手い、下手、関係なく行っている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとり、できる事の把握をし、できる事を行って頂き、人に必要とされていると思って頂ける様努めている				朝食時は職員が一名体制のため、利用者がお茶を入れる担当を率先して行ってくれている。 室内で夏祭りを行った際には、輪投げやヨーヨー釣りなどに景品を用意した。 日々の中では、新聞や雑誌折りをしたり、洗濯物たたみや食器拭きをしたりする場面をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、定期的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症や障害のレベルが関係なく皆で楽しくできる事を定期的に行っている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	コロナ感染症拡大防止のため色々なイベントや行事が中止となり、地域の方と交流を安全にすることが難しい				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人や家族より情報を聞き、化粧や毛染めなどを続けて行う事ができるよう支援している				利用者は、それぞれに清潔な服装で過ごしていた。昼食時、職員は、介助が必要な利用者の隣に座り、介助しながら食べこぼしなどをカバーしていた。 2ヶ月ごとに訪問美容師が利用者のカットをしたり、希望に沿って毛染めをしてくれたりしている。 衣類は、家族が持参したり、職員が買い物の代行をしたりして用意したものを着ている
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	着る服は全て本人に希望を聞いているが、希望が言えない方には、何通りかを見せ選んで頂いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考えたりアドバイスはするが最終的には本人に決めて頂くように支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	受診以外出掛ける機会が少ない中でも、その季節に応じた服を提案している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髯、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食事の際、口の周りが汚れていたら、さりげなくティッシュを渡している また、食べこぼしは本人に伝えず、さりげなく職員が片付けている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	歩行が可能な時は馴染みの美容室まで送迎していたが、車椅子を使用するようになってからは、美容室へ行く事が困難なため、美容師さんに施設まで来て頂き毛染めを行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態なら特に工夫して生活がしやすいよう支援を行っている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	一日の摂取量をチェックし、低下している利用者様の体調を把握する							
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍のため買い物は控えてはいたが、感染者数が落ちている時は感染対策を徹底し、職員と一緒に行った。また、畑で育てた野菜と一緒に収穫し、季節の野菜を取り入れたメニューを一緒に考えて頂いている			○	買い物、献立づくり、食材選び、調理等は職員が行っている。調理メインの職員を配置している。利用者は、下膳、食器洗い、台拭きなどを行っている。			
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一人ひとりに合った作業、食事の前、後の片付け等を行って頂いている							
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所された時に本人や家族に聞き把握し別メニューに変更している							
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	施設の畑で収穫したり、季節によっては土手などへ行き、つくしやわらび、いたんぼを探り、美味しく頂いている				◎	農家の人が軽トラで野菜を売りに来てくれたり、近くの産直市で買い物したり、地域の人のおすそ分けや事業所の畑の野菜などを使用したりして食事をつくっている。調査訪問日は地域の祭りの日で、新型コロナウイルス感染症対策のため祭りは行わないが、昼食に祭りの料理をつくっていた。		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	普通に軟飯・軟菜。義歯が無い方や咀嚼が困難な方は、キザミ食 嚥下状態が良い人はベスト食にするなど工夫して提供している					汁は、数日寒かったこともあり、粕汁をつくっていた。		
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗は軽量の物にするなどの工夫をしている。また、口に入れる量に合わせたスプーンを使っている					○	利用者の状態に応じて食器は事業所で用意している。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べ、目の見えない利用者様には、一つ一つメニューを伝え何を食べているかを把握して頂いている。また、食べこぼした時は、さりげなく拭く様に気を付けている					◎	職員は、利用者の間に座り、同じものを食べながら会話をしたりサポートをしたりしていた。	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	いつでもキッチンが見え、調理の準備が自然に目に入る環境であり、食事の時間が待ち遠しい様子			◎	◎	居間と台所がつながっており、料理をつくる様子が見えて、音や匂いがしていた。嚥せる利用者には、刻み、超刻み、ゼリー状、固形と色々な形態を試しながら支援している。		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一ヶ月分の献立表は一応あるが、利用者様の希望や体調により適切な栄養バランスがとれ、水分量にも気を付けている							
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食量や水分量が減った時は、市販の栄養補助食品や、OS-Iを飲用し、低栄養や脱水にならないよう工夫している							
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスを受け、調理師が献立のバランスや調理方法などについて話し合っている						○	季節感や栄養について踏まえた献立を一年分つくっており、それを参考にしながらアレンジして献立を立てている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	除菌が出来る食器乾燥機を導入して安全に使う事が出来ていて、食材は鮮度に注意しながら、使い切るようにしている							
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修などで口腔ケアの必要性、重要性を職員全員が理解し徹底して行っている							
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	一人ひとりの口腔内の状態を把握している				○	看護師資格を有する職員が利用者の口腔内の状況について管理をしている。口腔ケア時に異常を発見したり、利用者から痛みの訴えがあったりした時には、確認して受診につなげている。		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	コロナ禍にて歯科医や歯科衛生士からの指導は受けていないが、口腔ケアのマニュアルを活用し支援に努めている							
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、歯ブラシで洗浄して頂き、毎日ポリドント洗浄にて清潔に保たれている							
		e	利用者の方を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に自立にて行って頂き、その後チェックを行い口腔内の状態も確認している。また、重度の利用者様には歯磨きシートや口腔用スポンジを使って清潔を保っている					○	重度の利用者については、口腔清拭を行い清潔に保てるよう配慮している。	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	必要時には、家族様に相談し可能であれば受診に行っている。また、受診が困難な利用者様には、訪問診療を依頼し対応している							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツ使用者が紙パンツに移行したり、紙パンツを使用している人が布パンツに移行出来る様に支援している。また、羞恥心を気づけられないように気を付けている				朝の申し送り時に話し合い見直しを行うことが多く、排泄状況に応じてパッドなどを試しながら検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々の排泄パターンを把握しており便秘にならないように個々に合わせた運動や水分補給、食材などに工夫をしている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄は個々に記録し職員全員が習慣やパターンを把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	立位が困難な方でも、安心してトイレで排泄が出来るよう二人で介助を行ったり、その時々々の排泄量に合ったパッドを使用するなどの支援を行っている	○		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その都度、状況に応じて職員同士で話し合い改善に向けた取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄を記録し、パターンを把握して早目の声かけや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個々の時間帯に合わせた物を施設側が提案し本人や家族様に伝え、意見などあれば検討し改善している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の排泄パターンや尿量、使いやすさを考え、適している下着やパッド類を使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	残存機能やその日の体調をみて、適度な運動や腹部マッサージ、水分量、食材に気を付け、なるべく自然排便が出来るよう取り組んでいる				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴は個々の入りたい時に入らせて頂いているが、何日も拒否があった場合は声かけ等、色々工夫する事で清潔が保てるよう支援している	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	本人のペースで入浴出来るよう支援している				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	何もかも手伝うのではなく、本人の力を活かしながら自立支援を行っている				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	「お風呂場の掃除を手伝って欲しい」「体重を測る」「着替えだけを行う」等の声かけを行う事で入浴に誘導出来ている。それでも拒否が強い場合は、翌日に改めて声かけを行っている				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	前日の体調や状態、当日のバイタルを測定し異常がないか確認をしている。入浴後は、水分補給やベットに臥床し休んでもらっている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や朝の申し送り、月一回のモニタリングにて職員全員が睡眠パターンを把握している				日中はできるだけ昼寝をせずに過ごせるように生活リズムをつくっている。日中は、散歩や外気浴、体操を行ったりしており、夜は静かな雰囲気にして、廊下の照明は電球色にしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	個々に合わせて体を動かしたり、歌をうたったり、職員とお話したりして一日の生活リズムを整えられるように努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	寝られない原因を探り、何をするのが適しているかを職員同士で話し合い、良眠が出来る支援を実施し、それでも不眠傾向であれば、主治医に相談している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午前、午後共に居室にて休息が取れる支援を行っている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様より希望があれば、何時でも自由に電話が掛けられるよう支援している				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	書く事が困難な方には代筆も行っている。また耳の不自由な方には職員が間に入り電話もかけている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば自由に電話を掛けることが出来る				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やハガキが届いたときは、手紙で返事を書いて頂いたり、電話をかけた後工夫している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	不安な状態の時には、何時でも電話を掛けて来て下さいと言って頂き家族様にも協力が得られている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分もお金を持っていないと不安になるし、持っているとお金を持てないで安心できる、理解している					
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	コロナ禍での買い物が難しいため、移動スーパーに協力して頂き、施設駐車場で購入物が出来ている					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	移動スーパーに来て頂くよう働きかけた。また、コロナ禍で買い物はなかなか行けていないが近隣のスーパーの協力は得られている					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	○	入所時に家族様と相談しお金は預かりとなっているが、一部の利用者様は少ない金額ではあるが、自分で管理して頂いている					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合っている。また、高額のものになればその都度、家族様に報告しているし金銭の収支はきちんと見て頂いている					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	面会時に出納帳や領収書、残金などを確認して頂き、遠方の方には出納帳をコピーし郵送している					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	寝つきの悪い時に、お茶菓子やおにぎりなどを提供し一緒に話してお話して過ごしたり、家族様の希望で梅酒をおよ一杯を飲用して頂いている	○		○	受診の付き添いは職員が行っている。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	日中は、ほぼ玄関の戸は解放している。また、季節の花々や多肉植物を植えて親しみやすく出入り出来るように努めている。	○	◎	◎	道路に面する門扉を開けて入ると、玄関まで緩やかなスロープになっている。玄関周りは掃除が行き届き、寄せ植えなどを飾っていた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない。暖かな共用空間等、家庭的な雰囲気をそよよと醸成しているか等。)	○	共用スペースの居間には季節に応じた壁画を飾っている。また、和風の建物で落ち着いた雰囲気となっている	○	◎	◎	玄関に牛乳の大きな壁掛けを飾っている。室内は、落ち着いた色合いのものをしつらえてあり、洗面台に黄色い子菊の花を飾ったり、柱に山椒木のリースを飾ったりしていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	廊下や居間には空気清浄機を設置し、日中は窓を開け換気や努めている。また毎日、朝晩と利用者様と共に掃除を行っている			◎	掃除が行き届き気になるとはいえない。居間は、ベランダ側の窓からの採光が明るい空間になっている。テレビは、小さい音で点けていた。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に応じた花を花瓶に飾ったり、家族様に頂いた季節の木の葉(ゆず、栗・桜の花)居間に飾ったり、季節の野菜をメニューに取り入れている	○		◎	台所と居間は同じ空間にあり、テーブル席から食器棚や流し台なども手の届くところにある。また、居間からベランダに出られて、畑にも行くことができる。ソファに座っていると電車が通過するのが見える。	
		d	気の合う利用者同士で思い通りに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	独りになりたい時は、それぞれの居室で過ごしている。また、気の合う利用者様同士で過ごしたい時はリビングや居室で過ごされている	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	入り口には戸やのれん、カーテンを設置し、直接見えないように工夫している	○				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべてのタンスやテレビ、椅子などの使い慣れた家具を居室に置き自宅の雰囲気作りを努めている	◎		◎	新型コロナウイルス感染症対策のため居室への立ち入りは行わなかった。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お風呂場には温泉マークの入ったのれんを設置し、トイレにはどの角度から見てもトイレと分かる様に書いている			○	居室の入り口には、利用者それぞれが分かるように、名前、写真、造花など、目印となるものをつけていた。テレビの横にはテレビ局のチャンネル番号を貼り付けていた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	一人ひとりの持ち物全てに名前を書き、利用者様が間違わないよう心掛けている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	何時でも誰でも読むことができるように居間に雑誌が置いてあり、お茶も何時でも飲用出来る様にしている。また、テレビを何時でも利用者様が自由に出来るように、手の届く所にリモコンを置いている	○				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	夜間は施錠しているが、日中は玄関や窓など全て解放している。そのことを職員全員が周知し、利用者様が安心して過ごせ、家族や地域の方でも気兼ねなく来所できるように心掛けている	○	◎	○	日中は玄関に鍵をかけていない。ミーティング時に勉強会を行い勉強をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と話し合ったうえで施錠の同意は頂いてはいるが、なるべく施錠をしなくてもいい対策を行い安心して過ごすことが出来ている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には感知式センサーを設置し人の出入りがわかる工夫をしている。また、出掛けようとした時は職員も一緒に散歩などに出掛けている	○				
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時のサマリー、受診記録を共有する事で病気の留意事項は把握できている。また、家族様にも既往歴などを聞き取っている					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル、食事・水分摂取状況、心身機能・排泄状況を記録に残し、職員間で観察・共有できるように努めている					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	食事量低下、心身的に変化があればかかりつけ医に相談、また随時受診し、早期発見、状況によっては入院治療にて、重症化の防止に努めている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族様に状態を報告し、家族様の希望の医療機関を聞き受診出来るよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人・家族様の意向に沿った医療機関に受診出来るよう支援している また、状態の変化に合わせて家族様と相談し随時受診を行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診には職員が同行しているが、中には家族様が付き添われる事もあり、検査の必要性・検査結果・処方の変更等あれば電話かお手紙で報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーや口頭で情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	コロナ禍で面会は出来ないが、週一回程度、医療機関と連絡を密に行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期受診の際には、利用者様の日常生活の中で些細な変化も報告し、時間外の対応も受け入れもらえるよう病院関係者との関係作りを行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常の関わりの中で状態の変化を観察し、些細な変化でも看護職へ報告し対策を検討している。適切な処置・介護観察が継続して行えるように記録に詳しく送り際に伝え周知し、また受診の必要性があれば随時受診の手配を行う				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護職とは勤務時間外でも電話相談が出来る体制を取っている また、医療機関にも相談が出来る体制を取っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃より状態を把握し、少しでも変化があれば状態に応じて家族様に報告し、医療機関に連絡し指示を仰いでいる				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬局で受け取る処方箋で用法・容量を把握し、薬剤師から副作用の説明を聞き、職員間で共有している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個々の薬に日付を記入し、個別ケースに保管 一日分をカレンダーに配薬する その際、二重チェックを行っている また、服薬時は名前・日付等を確認し飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	食欲低下、嘔吐、下痢、便秘、表情の変化を日常的に確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	嚥下状態や形状によっては服薬困難な薬、服薬後の状態の変化は記録し、問題があれば処方医に相談する また変更があれば家族様に報告している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時、看取り介護を希望されている家族様には説明・同意を得ている また、状態に変化があった場合、家族様の気持ちの変化をくみ取り、意向を確認しながら方針を共有している				入居時、家族には「看取り介護についての同意書」で説明している。その後は、本人の状態変化時に話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医より家族様・施設に説明を受け、家族様の意向に沿った方針を決定し共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員一人ひとりの力量を把握し現状では支援がどこまで出来るかを見極めている また、医療行為を必要とする終末期は施設での看取りは出来ない				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明し同意も頂いているが、終末期を迎えた時に主治医からも詳しく説明して頂いている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医・施設・家族様で話し合いを行いチームで支援していく体制を取っている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様のその時々思い、気持ちの変容を傾聴し、心理的支援を行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設のマニュアルがあり職員全員が何時でも確認でき、社内研修にて感染予防・対策について学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修にて予防策を学び、対応については実技訓練を行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政などより感染症の情報がFAXやメールなどで入手し取り入れている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	随時対応している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員・利用者様は手洗いうがい・アルコール消毒を徹底しており、玄関には来訪者様にアルコール消毒を設置している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	救急搬送時には家族様にも病院へ来て頂き共に結果を待ったり、入院となった場合、入院準備物を共に考え準備している				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 2ヶ月に1回、いずみだよりを発行して、暮らしぶりの様子を写真入りで報告している。月に1回、管理者から個別に手紙で本人の様子を報告している。また、SNSで写真などを送るようなこともある。代表者とメールでやりとりするような家族もいる。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍にて面会はなかなか難しいが、落ち着いた期間は出来る範囲での面会を行っており、差し入れ等には良く来られている					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ感染拡大防止の為、家族様が参加出来る行事等は全て中止としている	○		◎		◎
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月に一度「いずみだより」を発行し、毎月日常の生活の様子や状態報告をお手紙にて行っている。また、本人の希望があれば電話が出来るよう支援している			◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	支払いや差し入れ等に來られた時などに、家族様の不安などを傾聴し、情報提供が出来るように努めている					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	自治体が開催している認知症の研修に家族様を誘い共に受講し、支援策を学び支援に繋げている					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお手紙にて報告している			△		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ感染症拡大防止の為、家族会や行事は全て中止しているので行う事が出来ない					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	毎月のお手紙や電話にて報告し起こり得るリスクに対して理解をして頂いている					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	支払いに來られた時やお電話にて意見や希望を傾聴している					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所時に契約内容の説明し理解を得ている。また、変更時はその都度、説明して同意を得ている				面会時や電話等で聞いている。	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	今までに事例は無いが、今後対応が出来る体制はある。また、契約時に説明も行い同意を得ている					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し同意を得ている					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に事業所の役割や目的を説明し、理解して頂いている			◎	地元元利用者の家族とのつきあいが続いているケースがあり、現在も野菜や古新聞等を持って来てくれる。系列事業所の職員がボランティアで音楽のライブを行い楽しませてくれている。さらに、このような時期であっても地域とつながりを持てるように事業所側から発信できることはないか話し合ってみてほしい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナ禍にて、自治体や町が開催する行事等が中止となっている為、地域とのつながりがもてていない		○	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	散歩などで地域の方と出会う機会等はしているが、コロナ禍にて増えず事は出来ていない					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ感染症拡大防止にて地域の方が気軽に立ち寄れる働きかけが行えていない					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ禍にて、立ち止まってしまう会話は行っていないが、挨拶はしている					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ感染症拡大防止にて働きかけが行えていない					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	コロナ感染症拡大防止にて行えていない					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	コロナ禍にて買い物への外出を控えている為、移動スーパーが活用出来るよう働きかけた					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ禍にて開催回数は減っているが、開催時には利用者様、家族様、地域の方に参加して頂いている。また、開催出来なかった時には、文書にて報告している。	△		△	この一年間では、10月のみ集まる会議を行った。その他は、行事と利用者の状況をまとめた資料を会議メンバーに送付することに止まっている。		
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議で外部評価の結果を配布し、目標達成計画の内容と取り組み状況を報告している。			△	行事と利用者の状況をまとめた資料を会議メンバーに送付している。外部評価実施後には評価結果について報告した。また、今年10月の会議時に目標達成計画の達成状況について報告した。		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見は職員間で話し合い、取り組んだ状況や結果を報告している。			◎	×	資料送付のみに止まっており、意見や提案をもらったり、サービス向上に活かしたりするような取り組みには至っていない。	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席して頂いている方の希望に添って行っている。			◎			
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	施設玄関にて掲示し、誰でも閲覧できるようにしている。						
IVより良い支援を行うための運営体制											
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	いずみの理念である笑顔・信頼・自由を共有し安心して暮らせる環境作りを実践している。						
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入所時に理念を家族様に伝えている。また、来訪時に見えるように玄関に掲示している。	○	◎				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内研修は毎月行い、社外研修はコロナ禍のため、参加は控えリモート研修を受けている。						
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月1回の研修を行いスキルアップが出来るよう取り組んでいる。						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	常勤・非常勤に関わらず、自己都合による休日の希望は了解し勤務表に反映することで、働きやすくやりがいのある職場環境に努めている。						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	新規採用者の職員にはリモート研修にて研修を行い、介護職としての意識の向上、いかに実践に活かせるか目標を持って貰うように努めている。コロナ禍にて行う事が出来ない事もあるが今後も実施していくように努めている。					代表者、管理者と職員で3者面談を定期的に行っている。	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	施設内の台所、床のリホームを行い清潔で働きやすいように環境を整えた。コロナ禍の中、職員にストレスがある為出来るだけ有休も上げられる体制に努めた。施設の周囲に野菜を作り花を植えて環境を整えた。定期的に樹木を伐採し周囲の環境を整えた。			○	◎	○	代表者は、有給を取ることを、希望休みを取りやすいことなどを大切に考えており、職員が必要に応じて十分に休暇を取ることができるように配慮している。職員の勤務日数や時間の希望も聞き、夜勤専門の職員を配置して勤務をカバーしている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に2回の社内研修にて高齢者虐待について学びミーティング等で話し合い理解を深めている。						
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の会話でよく話し合っている。						
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	発見時には、自治体に報告する事を職員全員が周知している。					月に1回のミーティング時に勉強会を行い学んでいる。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々コミュニケーションを取り職員の気持ちを把握している。						
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	やむを得ない場合の施設について家族様に同意は得ているが、職員全員で施設をしない工夫を考え、実施している為、禁止対象の行為は行っていない。						
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	年に2回の社内研修にて身体拘束について学びミーティング等で話し合い理解を深めている。						
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	施設について家族様に同意は得ているが、職員全員で施設をしない工夫を考え、実施している為、身体拘束に該当する施設は現在行っていない。						
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	現在制度を必要としている人は居ないが、制度について学んでいきたい。						
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現在制度を必要としている人は居ないが、今後必要となれば相談にのる等の支援を行っていく。						
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	現在、必要としている人は居ないが、地域包括支援センターや専門機関との連携はとれている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	異常時の早期発見については社内研修に取り入れて、職員間で周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修にて看護師より応急手当や初期対応について学び、職員全員が実践力を身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故報告書は提出できているが、ヒヤリハットの報告書の提出は少ない				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ワイアレスチャイムを設置し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	常に見れる所に置き職員それぞれが確認し対応策を考えている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が出た場合はマニュアルに沿って対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	迅速に対応案を考え話し合いで納得して頂けるよう努める				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	どんなに小さな訴えでも聞き流さず職員同士で話し合い対策案を考え解決する			x	利用者が運営についての意見等を伝えるような機会は特につくっていない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	施設玄関に苦情や意見が言えるようにご意見箱を設置している	○		x	家族が運営についての意見等を伝えるような機会は特につくっていない。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所時にも伝えておく必要となれば相談が出来る窓口の情報提供を適宜行っている				管理者は日々の中やミーティング時に職員の見解や提案を聞いて頂いている。さらに、職員それぞれの意見や考えを合わせていくための運営についての検討となっているかを確認しながら話し合いをすすめてほしい。
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の見解や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎日、現場に来られ職員の見解・要望等、直接聞いて頂いている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや申し送り時に意見や要望をいやすい環境作りを努めている			△	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎月のミーティングでモニタリングを行い職員全員で自己評価に取り組んでいる				外部評価実施後の運営推進会議時に評価結果について報告している。また、今年10月の会議時に目標達成計画の達成状況について報告した。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	支援のヒントを得て職員間で活かす事が出来ている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて、目標達成計画を作成し、その達成に向けて取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果、目標達成計画は地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告はしているが、コロナ禍のためモニターはして頂いていない	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて目標達成計画に掲げた取り組みの成果を報告し確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・風水害のマニュアルは作成し、職員全員で周知しているが原子力災害についてはマニュアルを作成していない				事業所内で年2回避難訓練(夜間の地震からの火災を想定・風水害想定)を行っている。地元元消防署員(運営推進会議メンバー)が、いざという時には協力してくれるようになっている。今後も、地域との協力・支援体制作り工夫を重ねてほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回、日勤帯・夜間帯を想定し避難訓練を行っている。また年に1回風水害の避難訓練を実施している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	半年に一度、食品の点検入れ替えを行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍にて合同の訓練は行えていないが、地域の方には、非常時の強力なお願いは行えている	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	x	コロナ感染症拡大防止の為、合同での訓練は行えていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ感染症拡大防止の為、研修や集まりが行われていないので、取り組めていない				地域の人からの相談を受けることはあるが、今後はさらに、事業所は相談できる場であることを地域に知ってもらえるよう取り組みを工夫してほしい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方より相談があると、その都度、対応している		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ感染症拡大防止の為、行えていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ感染症拡大防止の為、受け入れは行えていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ感染症拡大防止の為、行えていない			○	